

# フリースクール運営のNPO

## 通信制高校新設へ

### 16年度 津の閉校施設利用

高校中退者や不登校の生徒向けのフリースクールを運営するNPO法人「チャレンジスクール三重」(松阪市嬉野町)は30日、津市内に通信制高校を新設する計画を明らかにした。今春に閉校した同市立大井小学校の校舎の一部を使い、2016年4月の開校をめざす。同日の県私立学校審議会で報告した。

新高校は定員120人。県全域から通学生を募る。大井小の校舎3階(約870平方メートル)を津市に間借りし、NPO法人が約940万円を寄付して新しい学校法人を設立する。県によると、校地・校舎とも借りる学校法人は県内に例がないという。

チャレンジスクール三重は2005年に設立された。今は15歳〜20歳代の男女57人が通い、外部の通信制高校と連携して高卒資格をめざして勉強している。同法人の玉村典久理事長(55)は「不登校を経験した子ども『自分に合った学校に通いたい』という思いがある。多様な教育の機会を保障し、元を取り戻して次のステップに進んでもらいたい」と話す。

(高木文子)

# 不登校生らの進学支援

## 松阪のNPO法人 津に通信制高校開校へ

高校の不登校生や中退者の進学を支援する松阪市のNPO法人「チャレンジスクール三重」が、学校法人を新設し、二〇一六年四月に津市で通信制の私立高校を開校する計画を明らかにした。不登校や中退した生徒に特化した高校設立の動きは県内初。三十日、津市で開かれた県私立学校審議会で発表した。名称は津一志高校(仮称)。共学の普通科で定員百二十人。校舎は三月に廃校した津市大井小(一志町大井)を津市から借り受け、三階部分を使う。生徒は自宅学習だけでなく、本人の希望を聞きながら週四日ほど登校して授業も受ける。理事長の玉村典久さん(55)が校長となる。玉村さんを含む教員免許を持つNPOメンバー九人が教諭や非常勤講師として指導する。

チャレンジスクールは〇五年から松阪市で高校を不登校や中退した若者のための教室を開設。他の通信制高校を利用して高卒資格を取得できるよう、二百人の勉強を支援してきた。ただ、卒業後の進路が100%近く決まる全日制・定時制の生徒に比べ、通信制では進路が決まらないまま卒業する生徒が四割に上る。多くの通信制では月一回しか登校する必要がない分、生徒の実情が把握しづらく、きめ細かな指導が難しいとされ、新設する高校では登校回数を増やし、生活や進路指導も充実させる。

NPOは来年五月末までに学校の認可申請を県に提出。夏ごろに審議会での認可の可否を審査し、その結果を基に県が最終決定する。玉村さんは「既存の高校教育になじめなかった子どもたちにも一度、学校生活に挑戦する場を与えたい」と話している。

(添田隆典)